6月園だより

きりすとこどもえん

２０２３年度 年主題〈ともにつむぎだす～希望の中で～〉

0･1･2歳児６月主題 「なにかな／なんだろう」

月のねがい

◎保育者の祈りやさんびかを歌う姿に触れる。
◎周りのものや人に興味をもち、関わろうとする。
◎自分の好きなものと関わる中で興味が広がる。
◎自然に触れあう中で不思議にであう。

3･4･5歳児６月主題 「見つける」

月のねがい

◎友だちと一緒に賛美し、礼拝をする喜びを感じる。
◎自分の好きな遊びを楽しみながら、周りの人を感じ目を向ける。
◎様々ないのちの不思議に関心をもち、絵本や保護者、地域の方との交わりなどを通して興味が深まる。

今月の聖句

「私たちは互いに愛し合いましょう。」 第1ヨハネ4:7

吉本芸人ダウンタウンの松本人志さんが元SMAPの中居正広さんとダブル主演した「伝説の教師」(2000年放送)という学園ドラマがありました。松本さんは型破りな南原次郎という教師役を演じていました。南原教師が放った名言の一つに「相手の欠点10個言うてそれでも一緒に酒飲んでくれたら本当の友達や！」というのがあります。実はその台詞、松本さん自身の考案で脚本の中に入ったものだったそうです。

欠点の一つや二つならば、言われても我慢出来るかもしれない。けれどもそれが二けたにまで達すると、心穏やかでいられなくなるのではないか、と思います。「言われたら言い返す」「売られた喧嘩は買う」ということになるかもしれません。そうなると、それまで築き上げてきた人間関係も途絶え、疎遠になってしまうでしょう。けれども、本当の友情はそうではない、ということでしょう。お互いの良いことも悪いことも承知の上で、付き合いを止めない、ということです。夫婦の関係、親子の関係、友人関係の中に、そのような関係性があってほしいものです。

幼い子どもにそれを期待するのは難しいかもしれません。けれども、少なくとも幼少期に築き上げられる人間関係は、その基礎となるはずです。トムとジェリーの歌の歌詞を思い出します。それは、「トムとジェリー、仲良く喧嘩しな！」と始まります。喧嘩することはあっても仲がいい、そういう人間関係を大人が持っていたら、それは子どもたちにも大きな影響力を及ぼすことになるでしょう。

協力牧師 池田基宣

みぬいている
おかあさん
あたしのおともだちが
あそびにくると
やさしいかお
してなくちゃ
なんないから
つかれちゃうでしょ

茨木６歳女児

６月の行事予定

3日（土）	職員研修（熊毛地区研修）
8 日（木）	6･7月生誕生会（2才以上）
15日（木）	歯科健診
17日（土）	役員会
24日（土）	子育て遊びの会・講演会

７月の行事予定

4 日（火）	七夕訪問
5 日（水）	海遊び（4･5才児）弁当日
6日（木）	海遊び（2･3才児）
8日（土）	お泊まり保育
19日（水）	プール、弁当日
20日（木）	一学期終園式
22日（土）	７月生めぐみ誕生会
29日（土）	役員会

子ども同士の関わり

5月の園庭では、バッタにダンゴムシと春の昆虫を見つけては虫かごに入れて観察したり、ダンゴムシ迷路を使ってレースを楽しんだりと、虫とも全力で向き合う子どもたちです!!。図鑑を持ってきて「これ、○○じゃない？！」と、子ども同士で調べ学習もどきが始まります。一緒に考えて、学び合い、伝え合う姿に、仲間の繋がりと関わりを感じます。

砂場で穴を掘って遊んでいたある日、1歳児のE君が嬉しそうに穴の中にジャポン！E君の膝丈程の穴に入って、「お風呂みたいだね～」としばらく楽しんでいました。さて、穴から出ようとすると、一人ではバランスを崩して出られず、「ん“っん“っ」と手を伸ばして助けを求めました。そこへ手と肩を貸してくれるレスキュー隊、1歳児のAちゃん登場。E君が無事脱出すると、2人で喜んでいました。友だちが困っている様子を見て、小さいながらも手を差し伸べてあげている姿に感心しました。

またある日の礼拝前。椅子に座ってふざけ合っていたN君とK君に保育者が声を掛けるべきか迷っていると、K君がN君の手を抱き留めながら「もう、やめよう！」と一言でおふざけは終了しました。子ども同士の関わりをよく観察すると、まだしゃべれない1歳児は行動で、5歳児は言葉で関わり、それを納得して受け入れているようです。これらの事例は、子どもの成長過程の一部が垣間見られる瞬間でした。まだまだ、自分の気持ちを上手く伝えられなかったり、相手の気持ちを受け入れられなかったりもしますが、それぞれの心の声に寄り添いながら”自分らしく”過ごせるといいなと思っています。

さて、園庭には春の虫だけでなく、カタツムリやカナヘビ･トカゲ探し、カブトムシの幼虫観察です。そして今年もツマグロヒョウモンの幼虫が顔を見せ始めると、早速、虫かごで観察やお世話が始まりました。例年どおり、幼虫から成虫になる姿をじっくり観察し、子どもたちと一緒に飛び立つまでの過程を楽しみたいと思います。

いよいよ梅雨時期に入ります。ムシ暑い日や肌寒い日と、子どもたちの体調管理も大変ですが、皆さまもお身体にお気を付けくださいね(*^_^*)

伊豆元

特別な預かり物

今年は早々と台風が接近しています。その影響もあってか昨年と同様梅雨入りも早くなりました。ということは、梅雨明けも早くなり、またまた暑い夏も長くなるということでしょうか。

さて、個人的な話で恐縮です。孫が園に通うようになったのですから当たり前ですが、気付けば、三人の子供たちがみんな三十代になっていました。ついこの間まで学費のやり繰りに追われていたことも、今や遠い想い出。次の世代がどういう子育ての哲学？を持って生きていくのか興味津々です。今回は、ハリール・ジブラーンという詩人の書いた詩集「予言者」にある「子どもについて」という詩をご紹介します。私たちを取り巻く世界は、戦争、地震、原子力、温暖化、少子化、人口減…と様々な課題に溢れています。その中で子どもを育てるということは、あれこれ注釈などは致しませんので、皆さんがそれぞれに素直に何かを感じていただければ幸いです。

『子どもについて』

ハリール・ジブラーン（神谷美恵子訳）

赤ん坊を抱いたひとりの女が言った。どうぞ子どもたちの話をしてください。それで彼は言った。あなたがたの子どもたちはあなたがたのものではない。彼らはいのちそのものの あこがれの息子や娘である。彼らはあなたがたを通して生まれてくるけれども あなたがたから生じたものではない、彼らはあなたがたと共にあるけれども あなたがたの所有物ではない。あなたがたは彼らに愛情を与えうるが、あなたがたの考えを与えることはできない、なぜなら彼らは自分自身の考えを持っているから。あなたがたは彼らのからだを宿すことはできるが なぜなら彼らの魂は明日の家に住んでおり、あなたがたはその家を夢にさえ訪れられないから。あなたがたは彼らのようになろうと努めうるが、彼らに自分のようにならせようとしてはならない。なぜなら命はうしろへ退くことはなく いつまでも昨日のところに うろうろ ぐずぐずしてはいないのだ。

あなたがたは弓のようなもの、その弓からあなたがたの子どもたちは 生きた矢のように射られて、前へ放たれる。射る者は永遠の道の上に的をみさだめて 力いっぱいあなたがたの身をしなわせ その矢が速く遠くとび行くように力をつくす。射る者の手によって 身をしなわせられるのをよろこびなさい。射る者はとび行く矢を愛するのと同じように じっとしている弓をも愛しているのだから。

六月を迎えて、子どもたちはずいぶん園生活にも慣れてきました。朝の礼拝や体操にも落ち着きが感じられます。日々の経験から得る「自分」や「気づき」が興味を広げていきます。「先生、見て！来て！」と、自分の存在を認めて欲しいと願う気持ちこそ、自律ある育ちの原動力ではないでしょうか。

最後になりましたが、フリー参観には多くの方の来園をいただきありがとうございました。子どもたちの日常の活動等を通して、集団生活での姿を少しご覧いただけたかと思います。少々うつとうしい日々が続きますが、早寝･早起き･朝ごはんで元気に登園できますようご協力をお願いいたします。

学園長

自己（私）の育ち

５月は参観日があり、子どもたちの園での様子を見ていただいたところです。友だちや先生と過ごす姿など、家庭とはまた違った姿を見られたのではないでしょうか。お忙しい中ご参加いただき、ありがとうございました。

さて、保護者の方々が帰られてからある子どもたちの見せてくれた一場面です。

Ｒ君は、帰ってしまったお母さんを玄関まで追いかけて行き、「お母さんがいい～！」と大きな声で泣いていました。それを見ていたＮ君。「どうしたの？・・お母さんがいいの？・・そうだよね、お母さんがいいよね！ボクもお母さんがいいよ、一緒だよ。でも、給食だからお部屋に行って食べよう！」と、声を掛けていたのです。Ｎ君は、自分の正直な気持ちも口にしながら、優しく、丁寧にＲ君の気持ちに寄り添っていたのです。それは、まさしく愛溢れる言葉。Ｒ君の気持ちの切り替えに繋がって、それから給食をもらいに保育室に入っていきました。Ｎ君ありがとう。

子どもたちは様々なカタチで日々成長していきます。発達には必要な条件があり、そこに子どもの人格を形成する全てが含まれます。運動発達、知的発達、言語発達といった能力の分野。そして、持って生まれたものや環境によって変化していく性格的なもの。様々な分野が、一人の人間を形作っていきます。

乳幼児期の発達課題として最も大切なのが「私」の育ちです。

- 自分の体を動かせるようになる
  ＝自分の思うように動 かせる
- 自分の体の像ができていく＝ボディーイメージ･身体像
- 自分の感じていることに気が付く
  ＝自分の気持ちを知る・相手の気持ちを知る
- 自分のできることを知る＝相手のできることを知る
- 自分の得意・不得意を知る＝相手の得意・不得意を知る
- 周りの人と自分の違いに気が付く
- 自分の性格を知っていく＝相手の性格を知っていく

「私」が育っていくことにより、私が今感じていることを理解し、考え、判断し、選ぶことができるようになります。

Ｎ君は、これまでの経験から獲得した大切なことを友だちに伝えてくれました。自分のお母さんはかけがえのない存在であるということ、自分も「お母さんがいい～！」と言って泣いたことがあること、自分の気持ちを言葉にしていいということ。自己（私）を知って、他者への共感を表現できることは、なんて素晴らしいことでしょう。

幼いときに自分に関する様々な思いや事象に気付き、それを素直に表現できることが、個の育ちに働きかけられるよう願っております。

園長